

5月 2-8 日

## サムエル第一 27-29 章

### 71 番の歌と祈り

開会の言葉 (1 分)

## 神の言葉の宝

### 「ダビデの作戦」 (10 分)

宝石を探し出す (10 分)

サム一 28:15 すると“サムエル”はサウルに言った。「どうして私を呼び出して煩わすのですか」。サウルは言った。「非常に困っているのです。フィリスティア人が攻めてきているのに、神は私から離れてしまい、預言者によっても夢によっても答えてくださいません。それで、どうすればよいかを教えてくださいたくて、お呼びしました」

**この時、サウルが話したのは誰だったか。**

(塔 10 1/1 20 ページ 5-6 節 死者は生きている人を助けることができますか)

考えてみてください。人は死ぬと『地面に帰り』, 「考えは滅びうせる」, と聖書は述べています。(詩編 146:4) サウルもサムエルも, 神が霊媒との接触を非としておられることを知っていました。実のところ, サウルは自ら率先して, イスラエルの地から心霊術の慣行を取り除いていました。—レビ記 19:31 霊媒師に頼ってはならず, 占い師に相談してはならない。汚れることのないためである。私はあなたたちの神エホバである。

さらに, 忠実なサムエルは, たとえ霊となって生きていたとしても, サウルに会うために神の律法に背いて霊媒に協力したのでしょうか。エホバはサウルと話すことを拒んでおられました。霊媒が全能の神に強いて, 死んだサムエルを通してサウルと話をさせることができたとは, とても考えられません。明らかにこの“サムエル”は, 神の忠実な預言者などではありませんでした。死んだサムエルのふりをする邪悪な霊者だったのです。

(サムエルは追い詰められていたとはいえ、)

**今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。ほかにどんな宝石を見つけたか。**

①エホバとの関係が絶たれ追い詰められたサウルはサム一 28:7~霊媒師に相談し、歴代第一 10:13 にはこの邪悪な行為も原因でこの後に命を失うことになったと記録。イスラエルの王であったサウルがなぜそこまでの邪悪な罪を犯すまでになったのか不思議ですが、私たちも、もしエホバから離れるなら容易にサタンの影響下におかれる危険があることを教えられた、と感じた。それで今、霊的な良い習慣を保ち組織とともに歩み、エホバとの絆を積極的に強めていきたいと思う。

②(28:16)サムエルに扮した邪悪な天使も、(28:22)エンドルの女性霊媒師も、サウルに一見まともに、また親切に対応している様子が記録。親切を否定する訳ではないが、サタンに仕えるものたちが一見良い存在のように振る舞って、人を騙すのにたけた者たちであることが分かる。クリス

チャンである私たちも、人だけでなく、一件正しさを装う世の中の娯楽やメディア、考え方などに騙されないように十分注意しなければならないと思った。

聖書朗読（4分） [サムー 27:1-12](#)（[教励 第5課](#)）

## 野外奉仕に励む

最初の話し合いの動画（5分）討議。「[最初の話し合い: 良い人生（ガラ 6:7）](#)」の動画を再生する。映像が止まったところで動画を一時停止し、画面に表示される質問をする。「

感染症の流行は大変なことでしたね。これまで大丈夫でしたか？（ああ、そうですね。）よかったです。結構影響ありますよね。（ほんとうですね。）こういう時期を経験すると、人生はいろいろなことに左右されるなって感じますよね。周りで起きることもそうですし、中には人生のシナリオみたいなものが決まっていてそれにも影響されると考える人もいますけれど、どう思いますか？（あー、そういう考え方も有りますよね。そんなことで決まって欲しくないって思いますけど、）そうですね。

こんな言葉があるんです。「人は自分が蒔いている物を必ず刈り取ることにします（ガラ 6:7）」これは今自分が何をするかで、あとあと結果が変わって来るという聖書の言葉なんです。お聞きになったことがありますか？（んー、ないですね。）そうですか？例えば意識的に手を洗ったりマスクしたりするのは、感染症にかからないようにするためですよね。人生もそれと同じで、今することで将来も変わって来るということなんです。とってもポジティブな考え方と思いませんか？（決まっていると思うよりいいですね。）そうですね。勿論人生は全て思い通りになる訳ではないですけどね。聖書ってより良い人生をおくるためには何をしたらいいのかっていう情報も書いてあるんですよ。（へーそんなんですか？）

今度お会いできたら、聖書がどう役立つか、またお話しさせてください。

」

### ①伝道者はどのように分かり易く話していましたか？

ガラ 6:7 を説明するのに、感染症にかからないようにするために衛生習慣が大切であるように、人生も今することで将来も変わって来ることを聖書は教えていると説明。聖書にはより良い人生をおくるためには何をしたら良いのかという情報も書いてあるので、又お話しさせて欲しいと提案

### ②宣教ツールボックスの出版物をどのように活用できますか？

幸せに暮らせませす冊子のレッスン 1 の 3.「聖書は頼りになる本」の部分で、聖書が暗い時代の光を提供してくれる挿絵などを見せる。

最初の話し合い（3分） [話し合いのサンプル](#)を用いる。（[教励 第1課](#)）

最初の話し合い（5分） [話し合いのサンプル](#)を用いて話し始める。「いつまでも幸せに暮らせませす」の冊子を提供し、「[聖書を学ぶべきなのはなぜですか](#)」の動画を紹介する。（再生はしない）（[教励 第6課](#)）

## クリスチャンとして生活する

### [129 番の歌](#)

「反対に遭ってもしっかり立つ」（15分）討議。[動画](#)を再生し、次の質問をする。

（ヨハネ 15:20）奴隷は主人より偉くない、という私の言葉を覚えておきなさい。世の人々が私を迫害したのであれば、あなたたちをも迫害します。…

迫害を受けた時どうするか？ どうすれば耐える力が得られるか？

エホバに仕える人たちは忍耐でき、信仰を貫ける。

## 1. ナチス・ドイツにいた兄弟姉妹の手本から何を学べるか。

(ハインリヒ・ディックマン) ハイルヒットラー(救いはヒトラーから)というドイツ式敬礼を拒否。敬礼を求められてもただ「こんにちは」というだけだったので毎日が厳しい試練。

(パウルゲルハルト・クセロー6歳) 先生や生徒からのハイルヒットラーと言わせようと圧力受けた。800人以上の子供たちがゲシュタポにより承認である親から引き離された。

ドイツの各州で警察は証人たちの集会を止めさせ、家から家の伝道を禁止した。

(デトレフ・ガルベ教授) 最初は酷いことを言われ、時には殴られることもあったが、直ぐに最初の逮捕があった。

1937年からエホバの証人には見分ける記しとして紫色の三角形が与えられた。

(ブルフ・ブレベック) エホバの証人は囚人の中で単独で類別された唯一の宗教グループだった。JWは特に厳しい扱いを受けた。その狙いはこの宗教グループを抹殺することにあった。ドイツにJWは一人も居なくなるはずだった。

ナチスは証人たちの堅い誓約を破ることに躍起になり、普通ではない申し出をした。証人は誰でも署名と信仰という代価で自由を買うことができた。刑務所や収容所の証人たちは何度も紙とペンを渡された。署名したのはわずかだった。

(ゲルトルート・ポエツィンガーS) 刑務所から釈放されることになったとき、署名するための用紙を渡された。そこには信仰を捨て、ドイツ政府を最高の権威として認め、自分をヒトラー政府の管理下に置き、聖書を偽りの教理と考えることが要求されていた。私はそんなことは出来ないと断った。

(エルナ・ルドルフS) 兄弟姉妹の一致から本当に大きな力が得られた。どんな状況でも耐え忍ぶことが目標だった。自由にしてくださいと祈ったことは決してない。耐え忍ぶ力を祈り求めた。他は重要ではなく、大切なのはエホバのみ名を擁護することだった。

## 2. ロシアや旧ソビエト連邦の兄弟姉妹の手本から何を学べるか。

1951年2月19日保安局の長官はある極秘の計画をスターリンに提出。幼児や妊婦を含む全てのエホバの証人を流刑にするというもの。この作戦は北を意味するセーベルと名付けられた。スターリンはそれを承認した。

興味深いことにJWには流刑を免れる機会が与えられた。

(ワシーリー・カーリン) 私たちの流刑を扱った担当官は、書類にサインして信仰を捨てるように父を懸命に説得していた。しかし信仰を捨てた人はほとんどいなかった。

シベリアに着くとJWたちは線路沿いの集落に降ろされた。JWたちの大半は木を伐採した。

(フョードル・カーリン) エジプトでのイスラエル人の強制労働を思い起こした。信仰が揺るがないよう強めてください、と祈った。

1953年にスターリンが死亡し、解放への期待が高まりましたが、まだ先の事だった。

(イワン・ミキトコフ) 新政権も前と同じで、逮捕と処罰が続く。

逮捕されたJWたちの大半は強制労働収容所に送られた。フルシチョフの政権下ではJWたちの信仰を曲げさせるために特別な再教育収容所が設置された。

このころJWの評判を落とすための宣伝映画がソ連全土で上映された。

(ワレリー・ボルシチェフ) 迫害を経験した人なら皆知っていますが、迫害は偽りの上に成り立っている。犠牲者は中傷される。

KGBが長年宣伝工作を行うだけでなく、密告者を動員してエホバの証人の会衆に潜入させた。

1968年にKGBの地方長官は、ニコライ・ブイチコフにある任務を与える。

(ニコライ・ブイチコフ) JWをスパイするよう頼まれた。

進化論と聖書を比較したある小冊子は、KGBの密告者の見方を変えた。

(ニコライ・ブイチコフ) 生命の起源という質問に誰も答えてくれない。聖書の中にその重要な質問の答えが見つかった。

1984年にハバロフスクで、証人になっていたブイチコフたちは、反ソビエト的活動を行ったかどで提訴された。しかしJWたちの信仰に対する全面攻撃は迫害者たちにとって逆効果となった。

(ニコライ・ゴルディエンコ教授) ドイツやソ連では極端な暴力によって思想の弾圧が試みられた。しかし、強固な思想は人を強固にする。ですから結果は予想とは正反対だった。

1991年3月、エホバの証人はロシアで法的に登録された。

(アンナ・ボブチュク S) 逆境を知らない人には恐ろしいことだと思う。でも実際に経験するとき、あの特別の力を感じられる。

( ) エホバを信頼して、導きを求め、助けを求めるなら、必ず与えられる。

2009年以降、ロシアのエホバの証人にたいする迫害が再び強まる。2017年4月20日、世界中から非難を受けているにも関わらず、ロシア連邦最高裁判所はエホバの証人の活動が違法であるとの判決をくだした。それ以来、兄弟たちは「人ではなく神に」従ったために、逮捕され、有罪とされ、殴打されてきた。

会衆の聖書研究 (30分) [暮 レッスン 02](#)

閉会の言葉 (3分)

[94 番の歌](#)と祈り

^ [\(サムー 27:1-29:11\)](#) ダビデは心の中でこう言った。「私はいつかサウルの手で殺されるだろう。フィリスティア人の地方に逃げるのが一番いい。そうすれば、サウルはイスラエルの領土中で私を捜すのを諦め、私は逃げ切れる」。2そこでダビデは立ち上がり、共にいた600人と一緒に、ガトの王、マオクの子アキシユの所に行った。3ダビデと部下たちやそれぞれの家の人たちは、ガトのアキシユのもとに滞在した。ダビデは2人の妻と一緒にだった。エズレルのアヒノアムと、以前ナバルの妻だった、カルメルの人アビガイルである。4サウルは、ダビデがガトに逃げ去ったという報告を聞き、捜すのをやめた。5ダビデはアキシユに言った。「もし私があなたの好意を得ていましたら、どこかの田舎町に場所を下さり、そこに住まわせてください。この私がどうして王が住む町に住んでよいのでしょうか」。6それでアキシユはその日、チクラグを与えた。そのような訳で、チクラグは今もユダの王の所有地である。7ダビデがフィリスティア人の土地に住んだ期間は1年4カ月だった。8ダビデはしばしば部下たちと共に出ていき、ゲシュル人、ギルズ人、アマレク人を襲撃した。その人々はテラムからシュル、そしてエジプトにまで広がる地域に住んでいたのである。9ダビデはその地域を攻めると、男性も女性も生かしておかなかった。羊、牛、ロバ、ラクダ、衣類を奪っては、アキシユのもとに帰るのだった。10アキシユが、「あなた方は今日どこを襲撃したのか」と尋ねると、ダビデは、「ユダの南\*です」、「エラフメエルの子孫の土地の南です」、「ケニ人の土地の南です」などと答えていた。11ダビデは男性や女性を生かしたままガトに連れてくることはしなかった。彼が言うには、「私たちのことを報告させないため、『ダビデはこれこれのことをした』と言わせないため」だった。(ダビデは、フィリスティア人の土地に住む間ずっと、こういう方法を取った。) 12それでアキシユはダビデを信じ、こう思った。「彼は間違いなくイスラエル人に憎まれるようになった。だから、私にずっと仕えるに違いない」。

28 その頃、フィリスティア人がイスラエルと戦うため軍隊を集めた。そこでアキシユはダビデに言った。「当然分かっていると思うが、あなたも部下たちも私と共に戦いに行くことになる」。2ダビデはアキシユに言った。「あなたは私のすることを確かにご存じです」。アキシユはダビデに言った。「ならば、あなたをずっと私の護衛官にしよう」。3さて、サムエルはすでに死んでいた。イスラエル全体が彼のことで嘆き悲しみ、故郷のラマに彼を葬った。そして、サウルは領土から霊媒師や占い師を排除していた。4フィリスティア人は集まって進み、シュネムに陣営



## ダビデの作戦

ダビデは、サウルから逃れられる場所を探した。(サムー 27:5-7。洞-1 30)

ダビデはユダの領土を守った。(サムー 27:8, 9。塔研 21.03 4 ページ 8 節)

ダビデは、アキシュに事の詳細全てを明かすことはしなかった。(サムー 27:10-12。洞-1 281 ページ 3 節)



現代でも、当局から王国の活動が制限され、兄弟姉妹の情報を求められることがあるかもしれない。そのようなときは、兄弟姉妹を危険にさらさないために、沈黙を守ることが賢明である。(格 10:19 言葉が多ければ失敗\*を避けられない。言葉を慎む人は思慮深い; 11:12 分別のない\*人は隣人を侮辱し\*, 伝 3:7 裂くのに時があり、縫うのに時がある。黙っているのに時があり、話すのに時がある)

^ (サムー 27:5-7) ダビデはアキシュに言った。「もし私があなたの好意を得ていましたら、どこかの田舎町に場所を下さり、そこに住まわせてください。この私がどうして王が住む町に住んでよいのでしょうか」。6それでアキシュはその日、チクラグを与えた。そのような訳で、チクラグは今もユダの王の所有地である。7ダビデがフィリスティア人の土地に住んだ期間は1年4カ月だった。

^ (サムー 27:8, 9) ダビデはしばしば部下たちと共に出ていき、ゲシュル人、ギルズ人、アマレク人を襲撃した。その人々はテラムからシュル、そしてエジプトにまで広がる地域に住んでいたのである。9ダビデはその地域を攻めると、男性も女性も生かしておかなかった。羊、牛、ロバ、ラクダ、衣類を奪っては、アキシュのもとに帰るのだった。